

令和4年度病害虫発生予報第1号（5月予報）概要表

令和4年4月27日
埼玉県病害虫防除所

作物名・病害虫名		予報内容	
		発生時期	発生量
<u>1 水稻（5月中旬までの移植）</u>			
(1)	いもち病（葉いもち）		やや多
(2)	縞葉枯病		並
(3)	イネミズゾウムシ		並
<u>2 水稻（5月下旬以降の移植）</u>			
(1)	いもち病（育苗期）		やや多
(2)	もみ枯細菌病（育苗期）		やや多
<u>3 麦</u>			
(1)	うどんこ病		やや多
(2)	赤かび病		
	大麦		並
	小麦		やや多
(3)	さび病類（コムギ赤さび病、オオムギ小さび病）		並
(4)	アブラムシ類		並
<u>4 なし</u>			
(1)	黒星病		やや多
(2)	アブラムシ類		やや多
(3)	ハダニ類		並
(4)	カメムシ類		やや多
(5)	シンクイムシ類（ナシヒメシンクイ）	やや早	やや多
<u>5 トマト</u>			
(1)	灰色かび病		やや少
(2)	葉かび病		やや少
(3)	コナジラミ類		やや多

- ・ 予報の発生量は予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ※ 過去10年間で予報月に発生が確認されていない病害虫については、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並※」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。

作物名・病害虫名		予報内容	
		発生時期	発生量
<u>6 きゅうり</u>			
(1)	べと病		やや少
(2)	灰色かび病		やや多
(3)	うどんこ病		並
(4)	アザミウマ類		やや多
(5)	コナジラミ類		やや多
<u>7 なす (露地栽培)</u>			
(1)	アザミウマ類		やや多
(2)	コナジラミ類		やや多
(3)	アブラムシ類		やや多
<u>8 ねぎ</u>			
(1)	さび病		やや少
(2)	ネギアザミウマ		やや多
<u>9 茶</u>			
(1)	チャハマキ (第1世代幼虫)	並	並
(2)	チャノコカクモンハマキ (第1世代幼虫)		多
(3)	チャノホソガ (第1世代幼虫)	並	多
(4)	カンザワハダニ		並
(5)	クワシロカイガラムシ (第1世代幼虫)	早	

- ・ 予報の発生量は予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。

※ 過去10年間で予報月に発生が確認されていない病害虫については、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並※」と示しています。

- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。

令和4年度病虫害発生予報第1号（5月予報）

令和4年4月27日
埼玉県病虫害防除所

1 水稻（5月中旬までの移植）

病虫害名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
いもち病 (葉いもち)	やや多	○苗いもちの発生量：－ □前年の穂いもちの発生量は 平年より多（＋） □気象予報：気温は高い、降水 量は多い（＋）	・補植後の苗は感染源となるため、早めに撤 去する。 ・窒素質肥料を多用すると多発しやすくなる ため避ける。
縞葉枯病	並※	○苗での発生量：－ □本作型主体の地域における ヒメトビウンカ越冬世代幼 虫の縞葉枯病ウイルス保毒 虫率（参照1）は5.5%で平年 並（±） □気象予報：気温は高い、降水 量は多い（ヒメトビウンカの 発生傾向：±）	・病虫害防除情報「イネ縞葉枯病（ヒメトビ ウンカ）について」（参照2）を参考にヒメ トビウンカの防除を徹底する。 ・コシヒカリ、キヌヒカリ等の本病感受性品 種で箱施薬を実施しなかった場合は、残効 期間の長い粒剤で本田防除を実施する。
イネミズゾ ウムシ	並	○苗での発生量：－ □気象予報：気温は高い、降水 量は多い（＋）	・被害が多い場合は、本田防除を実施する。
【共通注意事項】 ・常発地や昨年多発した地域で、播種時箱施薬を実施していない場合は、移植前の箱施用剤で防除する (縞葉枯病はヒメトビウンカ対象)。			

参照1：ヒメトビウンカのイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率調査結果（令和4年3月23日）

https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/data_himehodoku20220323.html

参照2：病虫害防除情報「イネ縞葉枯病（ヒメトビウンカ）について」（令和4年3月23日）

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/info20220323fu.html>

表の見方について

- ・予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ※ 過去10年間で予報月に発生が確認されていない病虫害については、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並※」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（＋）は助長または促進、（－）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

2 水稻（5月下旬以降の移植）

病虫害名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
いもち病 (育苗期)	やや多	<input type="checkbox"/> 前年の葉いもち・穂いもちの発生量は平年より多 (+) <input type="checkbox"/> 気象予報：気温は高い、降水量は多い (+)	・育苗箱に発生した場合、薬剤による防除を実施し、日中は寒冷紗被覆をはがすなどして通風の改善を行う。
もみ枯細菌病 (育苗期)	やや多	<input type="checkbox"/> 気象予報：気温は高い、降水量は多い (+)	・温湯消毒を行う場合、60℃10分間処理では効果が不十分なことがある。そのため、薬剤による消毒を行うか、事前に十分な発芽率を確認した上で、60℃15分間処理を行う。 ・病原細菌は高温で増殖するので、催芽時及び播種後の温度を 28℃以上にならないよう管理する。
【共通注意事項】 ・常発地や昨年多発した地域では、播種期～育苗期に箱施用薬剤を使用して防除を徹底する。			

表の見方について

- ・予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- ※ 過去 10 年間で予報月に発生が確認されていない病虫害については、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並※」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、(+)は助長または促進、(-)は抑制、(±)は傾向維持を意味します。

3 麦

病虫害名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
うどんこ病	やや多	○4月中旬の発生量：多 □発生ほ場の発病程度は少～中とこの時期としては多いが、発生ほ場は一部に限られる（－） □気象予報：気温は高い、降水量は多い（＋）	・窒素過多で過繁茂のほ場で発生しやすく、穂および止葉を含む上位2葉で多発すると収量が低下するので、早期発見に努め薬剤による防除を実施する。
赤かび病	大麦 並 小麦 やや多	○4月中旬の発生量：－ □前年の発生量は平年並（±） □適期播き大麦の感染時期である4月中旬の降雨日は多かったが、降雨日の気温は低かった（－） □気象予報：気温は高い、降水量は多い（＋）	・小麦は、出穂から7～10日後を目安に開花始めを確認し、直ちに薬剤防除を実施する。その後、降雨が継続した場合、開花10日後に再度薬剤防除する。 ・二条大麦は穂揃期の10日後に薬剤防除する。 ・六条大麦は、穂揃期に薬剤防除を実施する。その後降雨が継続した場合、穂揃期から10日後に再度薬剤防除する。
さび病類 (コムギ赤さび病 オオムギ小さび病)	並	○4月中旬の発生量：並 □気象予報：気温は高い、降水量は多い（＋）	・窒素過多のほ場で発生しやすいため、早期発見に努め薬剤による防除を実施する。
アブラムシ類	並	○4月中旬の発生量：並 □気象予報：気温は高い、降水量は多い（±）	・多発ほ場では稔実不良による減収や品質低下が発生するので、乳熟期までに薬剤防除を実施する。
<p>【共通注意事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬剤使用時には収穫前日数を確認し、麦種の異なる近接のほ場に薬剤が飛散しないよう注意して作業する。 			

表の見方について

- ・予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ※ 過去10年間で予報月に発生が確認されていない病虫害については、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並※」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（＋）は助長または促進、（－）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

4 なし

病虫害名	発生予想	予報の根拠	防除上注意すべき事項
黒星病	発生量 やや多	○4月中旬の発生量：－ □前年秋期の発生量：並（±） □開花中の4月上旬の降水量： 平年より多（+） □気象予報：気温は高い、降水量は多い（±）	・発病葉、発病果実及び発病新梢の早期発見に努め、見つけ次第切り取って園外で処分する。 ・発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。
アブラムシ類	発生量 やや多	○4月中旬の発生量：やや多 □気象予報：気温は高い、降水量は多い（±）	・有翅アブラムシの飛来が多くなるので、早期発見に努め発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。
ハダニ類	発生量 並	○4月中旬の発生量：－ □果菜類でのハダニ類の発生は平年並（±） □気象予報：気温は高い、降水量は多い（±）	・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。 ・ナミハダニ及びカンザワハダニは、5月以降に施設イチゴ、ナスなどから移動して発生が増加することがあるので注意する。
カメムシ類	発生量 やや多	○4月中旬の発生量：－ □越冬密度調査：やや多（+） □気象予報：気温は高い、降水量は多い（±）	・雑草及び防風垣の着果性樹木（イヌツゲ、ヒバ類など）、モモの果実及び開花時のカンキツ類などにも飛来し寄生するので、同時期に防除を行う。 ・防除所発表のフェロモントラップ等のデータを参考に、発生動向に注意して防除を実施する。（ 参照3 ）
シンクイムシ類 (ナシメシクイ)	発生時期 やや早 発生量 やや多	○4月中旬の発生量：－ ■フェロモントラップによる越冬世代成虫の発生時期：やや早（+） □フェロモントラップによる誘殺数：多（+） □気象予報：気温は高い、降水量は多い（±）	・交信攪乱剤（コンフューザーN等）を第1世代成虫の発生期（平年は5月下旬～6月上旬）から使用する。ナシ園の周囲を含め広範囲で使用することが効果的である。 ・防除所発表のフェロモントラップデータを参考に、第1世代成虫の発生期に注意し、幼虫の発生初期に薬剤散布を行う。（ 参照3 ）
【共通注意事項】 ・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発現を避けるため、作用機構が同じ剤の連用を避ける。			

参照3：フェロモントラップ等調査データ

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/pheromonetrapp.html>

表の見方について

- ・予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ※ 過去10年間で予報月に発生が確認されていない病虫害については、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並※」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（+）は助長または促進、（-）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

5 トマト

病害虫名	発生予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
灰色かび病	やや少	○4月中旬の発生量：やや少 □気象予報：気温は高い、降水量は多い(±)	・発病果実及び発病葉は見つけしだい摘除し、施設外で処分する。
葉かび病	やや少	○調査地点以外で発生が散見 □気象予報：気温は高い、降水量は多い(±) □抵抗性品種の導入が進んでいる(-)	
コナジラミ類	やや多	○4月中旬の発生量：やや多 □気象予報：気温は高い(+)	・黄化葉巻病の発生が見られる場合は「病害虫診断のポイントと防除対策」(参照4)を参考に、防除を徹底する。
<p>【共通注意事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハウス内の温湿度管理に注意する。 ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに防除する。 ・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発現を避けるため、作用機構が同じ剤の連用を避ける。 			

参照4：病害虫診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

表の見方について

- ・予報の発生量は、予報月の平年値(埼玉県の過去10年間の平均)との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ※ 過去10年間で予報月に発生が確認されていない病害虫については、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並※」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値(埼玉県の過去10年間の平均)との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、(+)は助長または促進、(-)は抑制、(±)は傾向維持を意味します。

6 きゅうり（冬春栽培）

病虫害名	発生予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
べと病	やや少	○4月中旬の発生量：やや少 □気象予報：気温は高い、降水量は多い（±）	・多湿により助長されるので、ハウス内の温湿度管理に注意する。
灰色かび病	やや多	○4月中旬の発生量：やや多 □気象予報：気温は高い、降水量は多い（±）	
うどんこ病	並	○4月中旬の発生量：並 □気象予報：気温は高い、降水量は多い（±）	・やや乾燥した条件により助長されるので、ハウス内の温湿度管理に注意する。
アザミウマ類	やや多	○4月中旬の発生量：並 □気象予報：気温は高い（+）	・ミナミキイロアザミウマはキュウリ黄化えそ病（MYSV）を、タバココナジラミはキュウリ退緑黄化病（CCYV）を伝搬するので、発病が見られる場合は「病虫害診断のポイントと防除対策」（ 参照4 ）を参考に、防除を徹底する。
コナジラミ類	やや多	○4月中旬の発生量：並 □気象予報：気温は高い（+）	
【共通注意事項】 <ul style="list-style-type: none"> ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに防除する。 ・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発現を避けるため、作用機構が同じ剤の連用を避ける。 			

参照4：病虫害診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

表の見方について

- ・予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ※ 過去10年間で予報月に発生が確認されていない病虫害については、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並※」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（+）は助長または促進、（-）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

7 なす（露地栽培）

病虫害名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
アザミウマ類 コナジラミ類 アブラムシ類	やや多	○4月中旬の発生量：－ □果菜類またはナシでの発生 量：やや多（＋） □気象予報：気温は高い、降水 量は多い（±）	・定植時の防除を実施する。 ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。 ・抵抗性害虫の発生を防ぐため、作用機構が同じ剤の連用を避ける。

8 ねぎ

病虫害名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
さび病	やや少	○4月中旬の発生量：－ □前年秋期の発生量：少（－） □気象予報：気温は高い、降水 量は多い（±）	・耐性菌の発現を避けるため、作用機構が同じ剤の連用を避ける。
ネギアザミ ウマ	やや多	○4月中旬の発生量：多 □発生が多いほ場は一部に限 られている（－） □気象予報：気温は高い、降水 量は多い（±）	・定植時の防除を実施する。 ・抵抗性害虫の発生を避けるため、作用機構が同じ剤の連用を避ける。

【共通注意事項】

- ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。

表の見方について

- ・予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- ※ 過去 10 年間で予報月に発生が確認されていない病虫害については、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並※」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（＋）は助長または促進、（－）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

9 茶

病虫害名	発生予想	予報の根拠	防除上注意すべき事項
チャハマキ (第1世代幼虫)	発生時期 並 発生量 並	○4月中旬の発生量：並 ■県予察ほ場の越冬世代成虫初飛来日は、4月17日(平年比-1日) 平年並(±) □気象予報：気温は高い、降水量は多い(±)	・越冬世代成虫の発生ピークがここ数年早まっているので、防除所発表のフェロモントラップデータを参考に、一番茶終了後速やかに防除対策を実施する。(参照3)
チャノココカクモンハマキ (第1世代幼虫)	発生量 多	○4月中旬の発生量：多 □気象予報：気温は高い、降水量は多い(±)	・越冬世代成虫の発生ピークがここ数年早まっているので、防除所発表のフェロモントラップデータを参考に、一番茶終了後速やかに防除対策を実施する。(参照3)
チャノホソガ (第1世代幼虫)	発生時期 並 発生量 多	○4月中旬の発生量：- ■県予察ほ場の越冬世代成虫の初飛来日は4月10日と平年並(平年比0日)(±) □気象予報：気温は高い、降水量は多い(±) □県予察ほ場で予察灯による誘殺が確認された。(+) □フェロモントラップ調査での越冬世代成虫の誘殺数が多い(+)	・防除所発表のフェロモントラップデータを参考に、一番茶の摘採時期の三角葉巻が目立つ前に早めに摘採するか、薬剤による防除対策を実施する。(参照3)
カンザワハダニ	発生量 並	○4月中旬の発生量：並。 □気象予報：気温は高い、降水量は多い(±)	・一番茶摘採前の新芽に発生が多く認められる場合は、摘採前日数に十分注意しながら、防除対策を実施する。
クワシロカイガラムシ (第1世代幼虫)	発生時期 早	■有効積算温度による第1世代幼虫ふ化最盛期は、5月19日と予測される(アメダスデータ青梅：平年5月26日)	・防除適期は、ふ化幼虫期を中心とした短期間なので、関係機関から出される最新の防除時期予測に留意する。

参照3：フェロモントラップ等調査データ

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/pheromonetrapp.html>

表の見方について

- ・予報の発生量は、予報月の平年値(埼玉県の過去10年間の平均)との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ※過去10年間で予報月に発生が確認されていない病虫害については、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並※」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値(埼玉県の過去10年間の平均)との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、(+)は助長または促進、(-)は抑制、(±)は傾向維持を意味します。

(参照 HP)

参照 1：ヒメトビウンカのイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率調査結果（令和4年3月23日）

https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/data_himehodoku20220323.html

参照 2：病虫害防除情報「イネ縞葉枯病（ヒメトビウンカ）について」（令和4年3月23日）

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/info20220323fu.html>

参照 3：フェロモントラップ等調査データ

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/pheromonetrapp.html>

参照 4：病虫害診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

<農薬使用上の注意事項>

- 1 農薬は、ラベルの記載内容を必ず守って使用する。
- 2 剤の使用回数、成分毎の総使用回数、使用量及び希釈倍数は使用の都度、確認する。
特に、蚕や魚に対して影響の強い農薬など、使用上注意を要する薬剤を用いる場合は、
周辺への危被害防止対策に万全を期すること。
- 3 農薬を散布するときは、農薬が周辺に飛散しないよう注意する。
- 4 スピードスプレーヤを使用した防除ではドリフトが発生しやすいので、風のない日に適正
な方法で散布する。
- 5 周辺の住民に配慮し、農薬使用の前に周知徹底する。
- 6 農薬の最新情報は、農薬登録情報提供システム（農林水産省）から検索できます。
農薬登録情報提供システム（農林水産省） <https://pesticide.maff.go.jp/>

2 気象概要 1 か月予報 (令和4年4月21日発表)

出典：気象庁ホームページ (<https://www.jma.go.jp/bosai/season/data/pdf/P1M/010300.pdf>)

<予報のポイント>

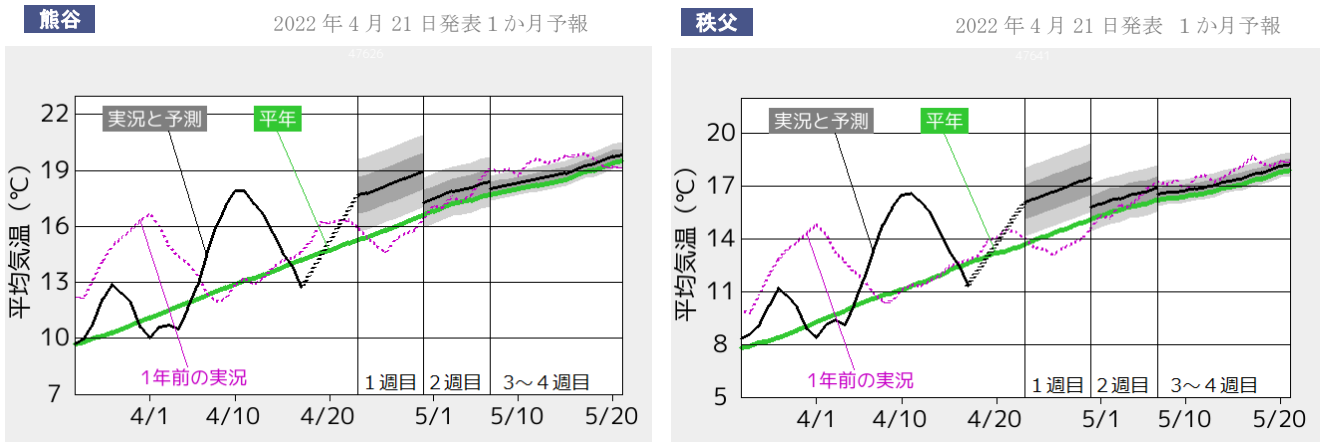
- ・暖かい空気が流れ込みやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。特に、期間のはじめは気温がかなり高くなる見込みです
- ・気圧の谷や湿った空気の影響を受けやすいため、向こう1か月の降水量は多く、日照時間は少ないでしょう。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

【気 温】 関東甲信地方	10	30	60
【降 水 量】 関東甲信地方	20	30	50
【日照時間】 関東甲信地方	50	30	20

凡例： 低い (少ない) 平年並 高い (多い)

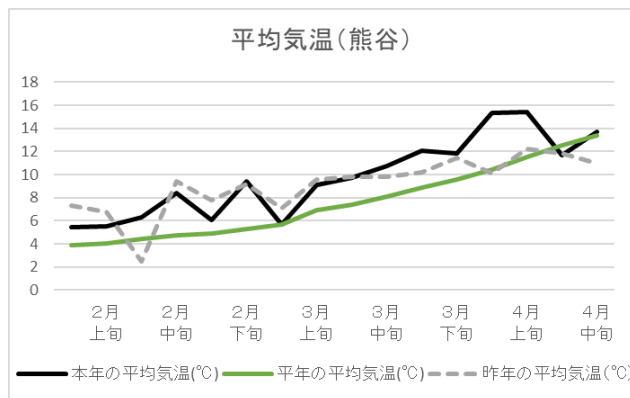
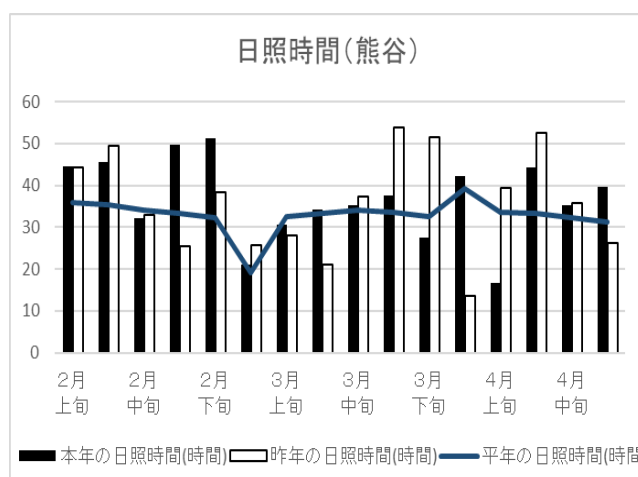
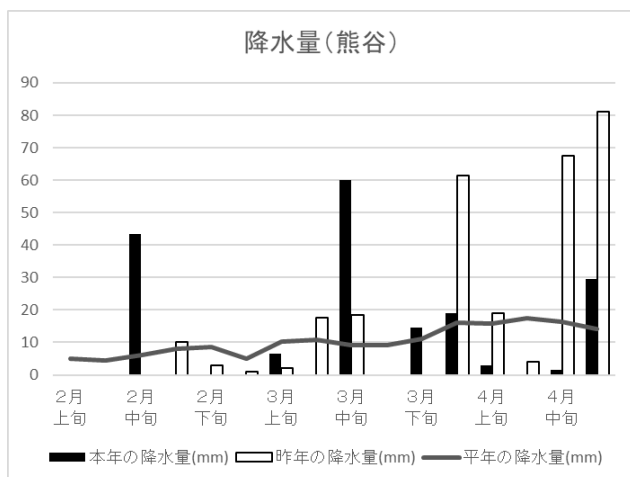
(参考資料1) 1 か月予報による気温の見通し (地点ごと)



図の見方

- 今年の実況(黒色の太い実線)
7日間の平均気温(プロットする日からみて3日前から3日後までの7日間の平均気温)を示しています。
- 予想(太い実線と網かけ)
予想の気温は、週別の平均的な気温の見込みを太線で表しています。また、信頼の程度が40%の幅を濃い網かけで、70%の幅を薄い網かけで示しています。>>> 詳細
- 平年値(緑色の太い実線)
平年値(1981~2010年の30年間の平均)を緑色の太い実線で示しています。
- 昨年の実況(紫色の点線)
昨年の実況値(7日間平均気温)を紫の点線で示しています。

(参考資料2) 過去の降水量と日照時間



☆手洗いでウイルス対策！！☆
 新型コロナウイルス感染拡大防止のために、
 農作業開始前後には、手洗い、手指の消毒を徹底しましょう。

<http://www.pref.saitama.lg.jp/a0907/nouann/tearaiurusutaisaku.html>

問い合わせ先
 埼玉県病害虫防除所
 〒360-0102 埼玉県熊谷市須賀広 784
 電話：048-539-0661 FAX：048-539-0663
 E-mail：k3603114@pref.saitama.lg.jp
<http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/b0916/>